

(d)これらの発作は何年何月から始まりましたか？ _____年_____月

(e)死亡前の1カ月間、この問題がご本人の日常生活、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか？ 影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし； 1=軽度； 2=中度； 3=重度； 9=不明)

注：もし(c)が“4”~“13”であり、かつパニック発作が発生した時、ご本人に強迫性障害(第2項参照)がなく、外傷後ストレス性障害(第3項参照)がなければ、「パニック障害」の診断が成立する。[DSM-IV基準に基づくと、パニック発作そのものは1つの診断でなく、「広場恐怖を伴わないパニック障害」(300.01)と「広場恐怖を伴うパニック障害」(300.21)の症候群です。当該調査はこの2種類の区別はなく、死亡当時、パニック発作の基準を満たしたかだけを考慮している。]

2. 強迫性障害

(a)死亡前の1カ月間に、ご本人は頭の中にある考え方あるいは衝動の思いが回復して現れ、それをぬぐえなくて緊張し不寧を感じると明かしましたことがありますか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

(b)死亡前の1カ月間に、ご本人は手を洗う、ドアにカギをかけるなどの動作を繰り返して、それでいてその行為が自分では必要ないと思っていたことがありますか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

もし2(a)、(b)が“0”であれば、(c)~(e)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)このような問題は何年何月から始まりましたか？ _____年_____月

(d)死亡前の1カ月間に、ご本人はこの問題に苦痛を感じていましたか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

(e)死亡前の1カ月間に、この問題がご本人の日常生活、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか？ 影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし； 1=軽度； 2=中度； 3=重度； 9=不明)

注：もし2(d)が“2”または2(c)が“1”~“3”であれば、“強迫性障害”の診断が成立する。[第2項の質問はDSM-IV強迫性障害の診断基準をやや簡素化した。]

3. 外傷後ストレス性障害

(a)死亡前の1カ月間に、ご本人は以前に本人または他の人の命を脅かす事件に遭遇したことで、その後も強烈な恐怖や動かしがたいと思つたような反応をしたことがありますか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

もし3(a)が“0”であれば、(b)~(f)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)死亡前の1カ月間に、ご本人はその事件を反復して思い出しは苦しんだり、悪夢を見たり、再びストレスを体験するような感覚を伴つたりしたことがありますか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

もし3(b)が“0”であれば、(c)~(i)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)死亡前の1カ月間に、ご本人は外傷に関係する活動、場所または人を避けましたか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

(d)死亡前の1カ月間に、ご本人は外傷を受けたことに関心があつたことに明らかに無関心になることがありましたか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

もし3(c)、(d)がどれも“0”であれば、(e)~(i)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(e)死亡前の1カ月間に、ご本人は以下のような状況が幾つ発生しましたか？ _____ 症状数
(注：各症状があつたかを1つずつ質問し、症状が幾つあつたかを決定してその数を記入する)

①外傷後に新たな睡眠障害が発生
②激怒しやすくなった
③集中するのが難しくなった
④周囲で起こることを過度に警戒した
⑤過度におびえる反応があつた

もし(e)が“0”または“1”であれば、(f)~(i)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(f)外傷は何年何月に発生しましたか？ _____年_____月

(g)ご本人がこの外傷を恐れる、または助からないと思うといった反応はいつから始まりましたか？ _____年_____月

(h)死亡前の1カ月間に、ご本人はこの問題が非常に苦痛だと感じていましたか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

(i)死亡前の1カ月間に、この問題がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか？ 影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし； 1=軽度； 2=中度； 3=重度； 9=不明)

注：もし3(h)が“2”、または3(i)が“1”~“3”で、かつ外傷発生の影響が1カ月以上[3(a)の日と死亡日との間隔が1カ月以上]であれば、「外傷後ストレス性障害」の診断が成立する。もし3(h)が“2”、または、3(i)が“1”~“3”だが、発生の影響が1カ月未満かつ2日以上であれば「急性ストレス性障害」と診断すべきである。[3(c)と3(d)の項目では、DSM-IV「外傷後ストレス性障害」診断基準の中の7つの外傷回避の症状をすべてに列挙していない。それはご本人の親族または周囲の人がこれらの症状が発生したかを説明するのが難しいからである。]

4. 全般性不安障害

(a)死亡前の6カ月間に、ご本人は仕事、学業またはその他の活動において、多くの日数で、過度の不安または心配を制御できないことがありましたか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

もし4(a)が“0”であれば、(b)~(e)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)死亡前の6カ月間に、多くの日数で、ご本人は以下の状況が幾つ発生しましたか？ _____ 症状数
(注：各症状を1つずつ質問し、症状が幾つあつたかを決定してその数を記入する)

①座ったり立ったりが安定しない、または緊張する
②疲れやすい
③集中して考えられない、または頭の中が空白
④激怒しやすい
⑤筋肉が緊張
⑥睡眠障害

もし4(b)が“0”~“2”であれば、(c)~(e)は“0”と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)このような不安は何年何月から始まりましたか？ _____年_____月

(d)死亡前の6カ月間に、ご本人はこの問題が非常に苦痛だと感じていましたか？ _____年_____月
(0：1； 2：9)

(e)死亡前の6カ月間に、この問題がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか？ 影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし； 1=軽度； 2=中度； 3=重度； 9=不明)

注:もし4(d)が"2"、または4(e)が"1"~"3"で、かつ全般性不安障害の発症時にパニック障害(第1項参照)がなく、強迫性障害(第2項参照)がなく、外傷後ストレス性障害(第3項参照)もなければ、「全般性不安障害」の診断が成立する。

1. 自殺行為と関係する可能性のあるその他の精神障害

- 0=確かでない
- 1=たぶんある (あるの可能性が高いが、確かでない)
- 2=確かにある
- 9=不明 (調査対象者が状況を把握していない)

1. 神経性無食症

(a)死亡前の6ヶ月間に、他の人がご本人にふさわしいと考えている体重よりもずっと体重が軽くなった時期がありましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)体重が異常に軽くなったその時、ご本人は太ることをすごく恐れていましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(b)が"0"であれば、(c)~(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)体重が一番減った時、ご本人はそれでもまだ太りすぎている、または体のどこかの部分が大すぎていると感じていましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(c)が"0"であれば、(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(d)(女性のみ質問)そのように体重が軽くなるまでに、生理が止まった時期はありましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)~(d)がいずれか一つでも"0"であれば、(e)は"0"を記入し、そうでなければ、次を問う。

(e)このような体重の減少は何年何月から始まりましたか?

注:1(a)~(d)がすべて"2"の場合、「神経性無食症」の診断が成立する。

2. 神経性大食症

(a)死亡前の6ヶ月間に、ご本人はむちゃ喰いをし、短い時間の間にたくさん食べ物を食べてしまったことがありましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)そのようなむちゃ喰いをしている時、ご本人は自分の力では食べるのをコントロールできなと感じていましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(b)が"0"であれば、(c)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)そのむちゃ喰いの影響をなくすために、ご本人は自分で吐くようにしたり、下剤を飲んだり、激しい食事制限をしたり、絶食をしたり、激しい運動をたたりていましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(c)が"0"であれば、(d)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(d)死亡前の6ヶ月間に、1週間に2回以上むちゃ喰いをする事が、3ヶ月間以上続いたことはありましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(d)が"0"であれば、(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(e)ご本人は、自分の体重や体型を、(同世代の)多くの人に比べてずっとと気にする方でしたか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)~(e)がいずれか一つでも"0"であれば、(f)は"0"を記入し、そうでなければ、次を問う。

(f)このようなむちゃ喰いや体重を防ぐための不適切な行動は何年何月から始まりましたか? 年 月

注:2(a)~(e)がすべて"2"の場合、「神経性大食症」の診断が成立する。

3. 転換性障害

(a)死亡前の1カ月間に、刺激を受けた後、ご本人は身体の病気とは無関係の意識不明、失明、耳が聞こえない、肢体マヒ、けいれんといった症状がありましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)このような症状は何年何月からですか? 年 月

(c)死亡前の1カ月間に、ご本人はこの問題が非常に苦痛だと感じていましたか? (0; 1; 2; 9)

(d)死亡前の1カ月間に、この問題がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体とどの程度でしたか? 影響なし; 軽度; 中度; 重度のいずれかでお答えください。 (0=影響なし; 1=軽度; 2=中度; 3=重度; 9=不明)

注:もし1(c)が"2"、または1(d)が"1"~"3"であれば、「転換性障害」の診断が成立する。(国内の伝説的治療診断基準は、大声で泣く、胸をたたき頭を打つなどのような刺激への強烈な反応を含むが、DSM-IVの基準に基づけば、感情反応だけでなく上述のような動きや気分障害が伴わなければ「転換性障害」と診断すべきである。)

4. 心気症

(a)死亡前の6ヶ月間に、ご本人は健康や身体の不調に過度の関心があり、自分が病気だと心配する、あるいはすでに重病になったと思ってしまうことがありますか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)医師が、ご本人が病気でないと言っても、ご本人はなお病気を心配しましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(b)が"0"であれば、(c)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)このような状況は何年何月から始まりましたか? 年 月

(d)死亡前の6ヶ月間に、ご本人はこの問題が非常に苦痛だと感じていましたか? (0; 1; 2; 9)

(e)死亡前の6ヶ月間に、この問題がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体とどの程度でしたか。影響なし; 軽度; 中度; 重度のいずれかでお答えください。 (0=影響なし; 1=軽度; 2=中度; 3=重度; 9=不明)

注:もし2(d)が"2"、または2(e)が"1"~"3"で、かつ心気症の発症時、ご本人が全般性不安障害(H部分の第4項参照)、強迫性障害(H部分の第2項参照)、またはパニック障害(H部分の第1項参照)がなければ、「心気症」診断が成立する。

5. 病的賭博

(a)死亡前の6ヶ月間に、ご本人は賭博に大変な精力と時間を費やしましたか? (0; 1; 2; 9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)死亡前の6カ月間に、ご本人は賭博と関係する以下の状況が幾つありましたが、
(注:各症状を1つずつ質問し、症状が幾つあったかを決定してその数を記入する。)

- ①しばしば賭博と関係する事を考えた。
- ②賭博での快楽を得るため、賭博に使う金が増えつづけた。
- ③何回も賭博を止めようとした時、不安を感じ、激怒しやすくなった。
- ④賭博を減らすまたは止めようとした時、不安を感じ、激怒しやすくなった。
- ⑤賭博によって悩み解消、または不快な感情を和らげようとした。
- ⑥負けた、金を取り戻すためにすぐにまた賭博をした。
- ⑦賭博へののめり込みを隠すため、親族、友人にうそをついた。
- ⑧賭博の資金を得るために、盗み、詐欺、借金横領などの違法行為をした。
- ⑨賭博の影響により、仕事、学業、人間関係を危うくした、または失った。
- ⑩賭博により経済的困難となり、他人の援助を求めた。

もし(b)が"0"~"4"であれば、(c)と(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)このような賭博は何年何月から始まりましたか。 _____年 _____月

(d)死亡前の1カ月間に、賭博がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか。影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし；1=軽度；2=中度；3=重度；4=不明)

注:もし3(b)が"5"~"10"であれば、"病的賭博"の診断が成立する。[DSM-IV 病的賭博
1)の診断では病気の期間の長さの規定はないが、この病気が長期に病理性衝動行動(男性は少年期から、女性では成年早期から開始)が存在すると記述していることから、この調査では症状の存在期間を死亡前の6カ月間に限定した。]

6.境界性人格障害:
(a)ご本人は成年早期からずっと人間関係と感情が不安定で、かつしばしば後を顧みない行為をしましたか。
(0:1;2;9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)ご本人は成年早期からずっと、以下の問題が幾つありましたが、
(注:各症状を1つずつ質問し、症状が幾つあったかを決定してその数を記入する)

- ①他人がご本人を不要とするのを心配し、それらの人の機嫌を取るようになった。
- ②最高に憂めたり下りたりしたり、他人への評価が極端に変化することがよくあった。
- ③自己評価が高かったり低かったり、不安定だった。
- ④金銭浪費、物質乱用、自動車などの無謀な運転など、自己を傷つける可能性がある衝動的な行為をしばしば行った。
- ⑤自傷・自殺行為を繰り返した、または言葉や自殺の態度で他人を脅した。
- ⑥感情反応が強烈で不安定。
- ⑦長期通、やるべきでないと感じた。
- ⑧不適切で激しい怒り、または人を制御できない。
- ⑨刺激を受けた後、一時的に意識を失う、または他人がご本人に悪意をもっていると疑うなどの症状または考えが起こった。

もし4(b)が"0"~"4"であれば、(c)と(d)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)死亡前の6カ月間に、ご本人はこれらの問題が非常に苦痛だと感じていましたか。
(0:1;2;9)

(d)死亡前の6カ月間に、上述の問題がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか。影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし；1=軽度；2=中度；3=重度；4=不明)

注:もし4(c)が"2"、または4(d)が"1"~"3"であれば、"境界性人格障害"の診断が成立する。
(DSM-IV 人格障害の診断基準では病気の期間の長さについて明確な規定はないが、人格障害は成年早期からずっと存在し、かつ患者の心理または社会対応機能に影響があれば診断)

が成立する。そのため、私たちはこの人格問題は短くとも死亡前の6カ月間に、ご本人に影響があったと規定する)

7.適応障害 (注:もしA~I部分の上述のどれかが診断されれば、この項目はどれも"0"と記入する)
(0:1;2;9)

(a)死亡前の1カ月間に、ご本人がかつて遭遇したストレス因子は、なおご本人の心理または行為に影響していませんか。
(注:表中での反応は含まない。)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(f)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)死亡前の1カ月間に、ご本人はそのストレス因子の苦痛が、一般の人が同様の状況に置かれた場合に予測されるよりもはるかに重かったですか。
(0:1;2;9)

もし(b)が"0"であれば、(c)~(f)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)死亡前の1カ月間に、このストレス因子がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか。
(0=影響なし；1=軽度；2=中度；3=重度；4=不明)

もし(c)が"0"であれば、(d)~(f)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(d)このストレス因子は何年何月から始まりましたか。 _____年 _____月

(e)ご本人の心理または行為への影響は、刺激発生からどのくらいの期間続きましたか。 _____年 _____月

(f)ストレス因子が最後に発生したのは何年何月ですか。
[注:もしこのストレス因子の発生が回のみであれば、5(f)と5(d)の記入は同じ。]

注:もし5(e)が3カ月以上で、かつ5(f)の日と死亡日との間隔が6カ月未満であれば、「適応障害1)の診断が成立する。

8. その他の精神または心理的問題

(a)死亡前の1カ月間に、上述で取り上げた以外の精神または心理的な問題が発生しましたか。
(0:1;2;9)

もし(a)が"0"であれば、(b)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(b)ご本人が当時から示した症状とその問題があった期間を記述してください。
[注:調査員はこれらの症状が重く、精神病と診断できるかを決定する。診断名 _____
もしあまり重くないければここは"0"と記入し、十分に重ければ、診断名と診断の把握度を記入する(把握度コード1~5:最低~最高)] 把握度 (1:2;3;4;5)

もし(b)が"0"であれば、(c)~(e)は"0"と記入し、そうでなければ、次を問う。

(c)この問題は何年何月から始まりましたか。 _____年 _____月

(d)死亡前の1カ月間に、ご本人はこれらの問題が非常に苦痛だと感じていましたか。
(0:1;2;9)

(e)死亡前の1カ月間に、この問題がご本人の日常生活、社交活動、仕事の能力に与えた影響は全体としてどの程度でしたか。影響なし、軽度、中度、重度のいずれかでお答えください。
(0=影響なし；1=軽度；2=中度；3=重度；4=不明)

J. 精神問題(障害)に対する援助希求

1. 過去の時期、ご本人は上述のいずれかの精神的問題で医者に行ったこと、または助けを求めたことがありますか。(「助けを求めた」とは、どんな種類の医療従事者、気功師、祈祷師でも、薬店に行くことなどでもよく、これら患者に専門に治療を提供する人を含む)
 (0=いいえ ; 1=はい ; 9=不明)

もし第1が「0」であれば第2～3は「0」と記入し、「9」であれば第2～3は空欄とし、そうでなければ次を問う。

1-2. 援助を求めた先は、どこでしたか。
 複数回答になる場合は主なるところを◎とし、2. 3. の質問は主なるところでの診断、治療状況を回答して下さい。
 1=心療内科
 2=精神科
 3=その他の診療科(内科・外科など)
 4=精神保健福祉センター
 5=保健所
 6=薬局
 7=民間治療院(整骨院・鍼灸院など)
 8=祈祷師
 9=民間電話メール相談
 10=その他()

2. 医者または援助者は、診断または原因について何としましたか。
 (注:病気が3種類を超えれば、回答者が最も重いとみた順に3種類を選択する。)

3. 治療状況
 (a)ご本人はこの(これらの)問題で合計どのくらいの期間入院しましたか。 ___ 月 ___ 日
 (b)死亡前の1ヶ月間についてお答えください。
 ご本人は上述の精神問題で主にどのような薬を服用しましたか。
 (注:薬の服用がなければ「0」と記入する)

(c)この問題で、最後に医者に行ったのは何年何月ですか。
 ___ 年 ___ 月

(d)この問題の治療のために、通院医療費公費負担制度(障害者自立支援法による自立支援医療制度)を利用していましたか。
 (0=いいえ ; 1=はい ; 9=不明)

K. 調査員による本人に対する精神障害の診断およびその把握度

これまでの情報に基づき、DSM-IVの基準を用いて各種障害の存在の可能性を判断し、かつその把握度を評価する。呼応の数字に丸をつけてください。

病名	診断の有無		診断の把握度						
	全くたぶんない	たぶんある	非常に低い	低い	普通	高い	非常に高い		
X-4 注意欠陥/多動性障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
X-5 行爲障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
A 精神遅滞	0	1	2	9	1	2	3	4	5
B 認知症	0	1	2	9	1	2	3	4	5
C-1 アルコール乱用	0	1	2	9	1	2	3	4	5
C-2 アルコール依存	0	1	2	9	1	2	3	4	5
D-1 物質乱用	0	1	2	9	1	2	3	4	5
D-2 物質依存	0	1	2	9	1	2	3	4	5
E-1 大うつ病性障害(単一または反復エピソード)	0	1	2	9	1	2	3	4	5
E-2 気分変調性障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
F-1(b) 双極性I型(単一躁病エピソード)	0	1	2	9	1	2	3	4	5
F-1(b) 双極性II型(その他)	0	1	2	9	1	2	3	4	5
F-2 双極性II型障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
G-1 短期精神病性障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
G-2 統合失調症	0	1	2	9	1	2	3	4	5
G-3 その他の精神障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
H-1 パニック発作	0	1	2	9	1	2	3	4	5
H-2 強迫性障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
H-3(a)外傷後ストレス障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
H-3(b)急性ストレス障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
H-4 全般性不安障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-1 神経性無食欲症	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-2 神経性大食症	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-3 転換性障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-4 心気症	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-5 病的賭博	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-6 境界性人格障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-7 適応障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5
I-8 その他の種類の精神障害	0	1	2	9	1	2	3	4	5

亡くなる前1ヶ月間のご様子

リストA

死亡前1ヶ月間、ご本人に、以下のような容姿・外見の変化はありましたか？

- 1=入浴しなくなる
- 2=髪形を気にしなくなる
- 3=化粧をしなくなる
- 4=散髪をしなくなる
- 5=洗顔・歯磨きをしなくなる
- 6=同じ衣服を繰り返しきる
- 7=衣服の汚れを気にしなくなる
- 8=その他 ()

回答者用小冊子

死亡者のご家族・知人用

リストB

死亡前1ヶ月間、ご本人に、以下の行動がみられましたか？

1. 明らかに不注意な交通事故を起こす。
2. 交通違反が増える。
3. 自動車運転が荒くなる
4. 無理な株式投資やギャンブルなどをやる。
5. とても高価な買い物をする。
6. 定期内服薬を飲まなくなる。
7. 医師の指示を聞かない。
8. 健康な状態を保つことや、病気の予防ができない。
9. けんかや口論をする。
10. 社会的ルールに反した行動をとる。
11. 物をよなくす
12. 怪我を頻繁にする
13. 言葉遣いが荒くなる
14. その他 ()

国立精神・神経センター精神保健研究所

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

リストC

死亡前1ヶ月間、ご本人に、以下の行動がみられましたか？

1. 自殺の手段を用意する（ひもや包丁を隠し持つ、薬をため込む、など）
2. 自殺する予定の場所を下見する。
3. 貯金を使い果たそうとする。
4. 金品を家族や知人に譲る。
5. 大切なものを家族や知人に譲る。
6. 日記や写真を処分する。
7. 普段あっていないような遠方の友人を訪ねる。
8. その他、死の準備の具体的な行動（

生活出来事一覧表

死亡される前1年間にあった出来事に○をつけてください。

A:職場の出来事		B:学業上の出来事	
1	新しい会社（企業）に就職（転職）した	28	入学した
2	上司・上役が変わった	29	卒業した
3	上司とうまくいかないことがあった	30	転校した
4	同僚とうまくいかないことがあった	31	退学した
5	部下とうまくいかないことがあった	32	入学試験を受けて受かった
6	相手先とうまくいかないことがあった	33	入学試験を受けて落ちた
7	職務上の大きな変化（配置転換・異動）があった	34	成績が上がった
8	仕事の計画段階から参加できた	35	成績が下がった
9	昇進した	36	留年した
10	昇進できるはずができなかった	37	教師とうまくいかないことがあった
11	昇進試験に合格した	38	担任が変わった
12	昇進試験に失敗した		
13	仕事で睡眠のリズムが変わった	C:経済上の出来事	
14	上司からよく仕事の完成（出来上がり）を急がされた	39	給料（収入）がかなり増えた
15	仕事の納期に追われた	40	給料（収入）がかなり減った
16	単身赴任の期間が始まった	41	ボーナスが期待以下だった
17	単身赴任の期間が終わった	42	ボーナスが期待以上だった
18	仕事量がかなり増えた	43	借金をした
19	仕事量がかなり減った	44	臨時の多大な出費（結婚式、子どもの入学等）があった
20	仕事で成功した	45	日常的支出がかなり増えた
21	仕事で失敗した	46	お金を損した（盗まれた）
22	他部署から激しいクレームがついた	47	お金を得した
23	自分で設定した仕事の目標に達成できた		
24	海外出張した		
25	自分から退職した		
26	定年退職した		
27	解雇させられた		

（次のページに続きます）

D:対人関係上の出来事

- 48 恋人ができた
- 49 恋人と仲たがいをした
- 50 恋人と別れた
- 51 新しい友人ができた
- 52 友人と仲たがいをした
- E:住居に関する出来事
- 53 今までより良い所に転居した (家族と一緒に)
- 54 今までより悪い所に転居した (家族と一緒に)
- 55 新築・改築・増築した
- 56 雨もり等の不備が発生した

G:病気や事故

- 67 家族が入院したり、1か月以上自宅療養した
- 68 家族が全快した
- 69 あなた自身が入院したり、1か月以上自宅療養した
- 70 あなた自身が全快した
- 71 家族が交通事故などのトラブルにあった
- 72 あなた自身が交通事故などのトラブルにあった
- 73 家族が亡くなった

F:家庭での出来事

- 57 婚約した
- 58 結婚した
- 59 別居した
- 60 離婚した
- 61 妊娠した
- 62 子どもが生まれた
- 63 流産した
- 64 中絶した
- 65 夫婦仲が良くなった
- 66 夫婦仲が悪くなった

H:会社の経営

- 74 会社の経営状態が悪化した
- 75 会社が倒産した
- 76 新しく起業した

I:その他

(その他の出来事があれば何でも結構ですので
教えてください)

資料 3

ご存じですか？

こころの相談窓口

「疲れた」、「体調が悪い」、「眠れない」、
「つらい気持ち」など、ひとりで抱え込む
ことのないように、ご自身のお気持ちを誰

かに伝えることも一つの方法です。

私たちに、そのためのお手伝いをさせて
いただければと思っています。

大切な人を突然失ってしまったあなたへ

一人で呆然としていませんか？驚きとショックで何をしたら良
いかわからなくて困っていませんか？私も遺族の一人です。嘆
きと悲しみと置いていかれてしまった悔しさで、ただただ泣い
ていました。座り込んだまま、立ち上がることもできず、誰に相
談することもできず、なぜ？どうして？あなたを助けてあげられ
なかつた私が悪かった！ごめんなさい。わたしもつれていてほ
しかった！そんな感情が渦巻いてひたすら泣くばかりでした。

でも、いま、あなたは一人ではありません。助けてくれる人、
支えてくれる人、相談に乗ってくくれる人、悲しみを分かち合っ
てくれる人、慰め励ましてくれる人がきつといます。一人で泣かな
いでください。勇気を出して助けを求めてください。

H. I

こころの相談窓口

相談窓口	電話番号	窓口開設日時
青森県立精神保健福祉センター こころの電話	017-787-3957 017-787-3958	月曜～金曜 9:00～16:00 (祝祭日は除く)
青森保健所保健予防課 (東地方健康福祉こどもセンター保健部)	017-741-8116	
弘前保健所保健予防課 (中南地方健康福祉こどもセンター保健部)	0172-33-8521	
八戸保健所保健予防課 (三戸地方健康福祉こどもセンター保健部)	0178-27-5111	月曜～金曜 8:30～17:15 (祝祭日は除く)
五所川原保健所保健予防課 (西北地方健康福祉こどもセンター保健部)	0173-34-2108	
上十三保健所保健予防課 (上北地方健康福祉こどもセンター保健部)	0176-23-4261	
むつ保健所保健予防課 (下北地方健康福祉こどもセンター保健部)	0175-24-1231	
特定非営利活動(NPO)法人 あおもりのいのちの電話 相談電話	0172-33-7830	毎日 12:00～21:00

平成16年2月、夫は電車で飛び込み自殺してしまいました。なぜ、
 どうして死を選ばねばならなかったのか？私はなぜ気づけなかつ
 たのか、と苦しみ、周りには病死と伝えました。

でも主人の業務日誌や書類を読んできて、何も悪い事をしてい
 ない、身勝手に死んだわけではないと、今は彼の死を受け入れ、
 少しでも自殺を減らすにはどうしたらよいかをこれから考えてい
 きたいと思っています。

このリーフレットを手にしたあなた様といつかどこかで分かち合
 える時がきますように。

S. N

この原稿は実際につらい体験をされたお二人の方からご寄稿いただいたも
 のです。ご本人の了解をいただき、そのまま掲載させていただきました。

平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

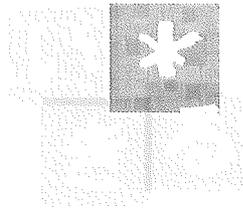
「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」研究報告書（Ⅱ）
心理学的剖検に関するフィージビリティスタディに関する研究

発 行 日 平成 18 年 3 月

発 行 者 「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」
主任研究者 北井 暁子

発 行 所 国立精神・神経センター精神保健研究所
〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

TEL : 042-341-2711 FAX : 042-346-1944



自殺予防対策支援ページ
www.ncnp-k.go.jp/kiru-hp

200501389A

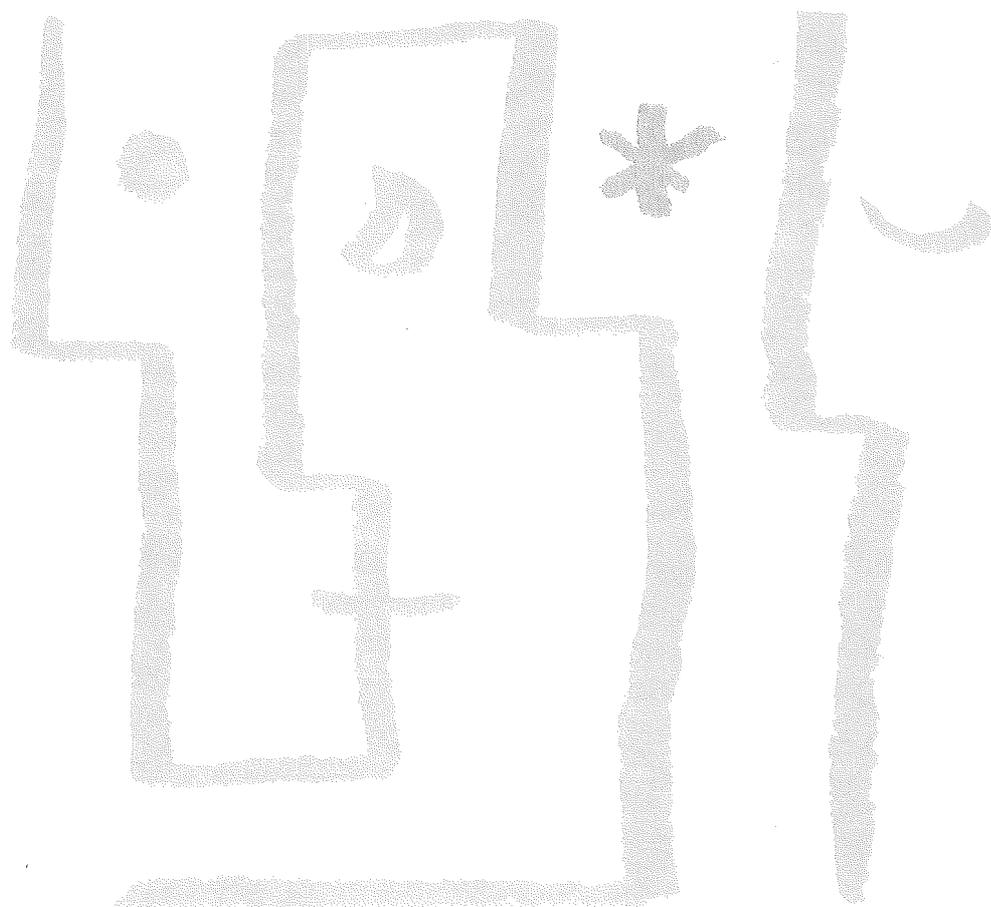
厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業

自殺の実態に基づく 予防対策の推進に関する研究

自殺の実態に関する人口動態調査に基づく
保健統計的研究（資料）

平成17年度 総括・分担研究報告書Ⅲ

主任研究者 北井曉子



平成18年(2006年)年3月

平成 17 年度 厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

自殺対策のための自殺死亡についての地域統計



平成 17 年度 研究報告書 第 3 部

自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究

主任研究者 北井 曉子

分担研究者 藤田 利治

平成 18 年（2006 年）3 月

まえがき

わが国における自殺死亡者数は平成9年まで2万5千人前後で推移していましたが、平成10年に3万人を超え、以降もその水準で推移しています。平成17年7月には参議院厚生労働委員会において、「自殺に関する総合対策の緊急かつ効果的な推進を求める決議」がなされました。この決議を受けて政府は、一体となって自殺対策を総合的に推進するため、内閣官房副長官を議長とする自殺対策関係省庁連絡会議を設置(平成17年9月26日)し、同年12月26日には「自殺対策に向けての政府の総合的な対策」が取りまとめられました。また、総務省からは、自殺予防対策に関する有識者の意識や全国的な自殺予防対策の実施状況の調査に基づいて、「自殺予防に関する調査結果に基づく通知」(平成17年12月)が示され、基本的な行政上の課題や個別の行政上の課題が指摘されています。自殺対策は、国家的課題として取り組まれつつあります。

こうした政府の総合的な対策や通知の中で、統計調査等から得られたデータの分析による一層の活用が指摘されています。地域において自殺予防対策を企画・立案し、実施するに当たって、統計資料の整備がさらに必要とされています。

今回、厚生労働科学研究費補助金による研究班において、地域における自殺予防対策の企画・立案を促進するため、地域ごとの自殺死亡の実態把握についての「自殺死亡についての地域統計」を作成いたしました。特に、本報告書の第6表では、平成17年3月末現在での二次医療圏ごとに、昭和48年まで遡れるかたちで自殺死亡の実態を詳細に整理いたしました。

地域における自殺予防対策が、自殺実態の科学的な状況把握の下で適切に企画・立案され、実施されるために、本報告書が活用されることを願っています。

平成18年3月

平成17年度厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)
「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」 分担研究者

国立保健医療科学院

藤田 利治

目次

I. 自殺死亡の地図および統計表

第1図 自殺死亡の年次推移	1
第2図 年齢階級別の自殺死亡率の年次推移	2
第3図 二次医療圏別の自殺状況	6
第1表 自殺の年次推移：自殺死亡数、死亡率、年齢調整死亡率	19
第2表 性・年齢（5歳階級）別の自殺の年次推移：自殺死亡数、死亡率	20
第3表 都道府県別の自殺の年次推移：自殺死亡数、死亡率	26
第4表 都道府県別の自殺の年次推移：標準化死亡比、年齢調整死亡率	38
第5表 都道府県・性・年齢階級別の自殺の推移：自殺死亡数、死亡率、対全国比	46
第6表 二次医療圏・性・年齢階級別の自殺の推移：自殺死亡数、死亡率、対全国比	70

II. 付録

用語説明	255
二次医療圏別の構成市町村（平成17年3月末現在）	258